

植物は世界をめぐる
植物を探して地球を横断

未知の植物への渴望

17 世紀に貿易航路が整うと、西洋人の活動範囲は世界各地へと広がりました。18 世紀には全世界の自然物の解明と体系化という科学的な探求心が強まり、一方で経済的価値の高い未知の自然物を探る熱意が高まってきました。なかでも植物への関心は高く、食糧や嗜好品、医薬や用材として価値の高い植物が求められただけでなく、観賞価値の高い園芸植物への渴望も高まりました。

この時代の先頭に立っていたのはイギリスのジョゼフ・バンクス (1743-1820) でした。バンクスはジェームズ・クック (1728-1779) の第 1 回航海 (1768-1771) に同行し、南太平洋地域の科学的調査をはじめて行いました。帰国後はキューガーデンを拠点とした未知の植物の収集活動を指揮し、世界各地にプラントハンターを派遣しました。

植物の輸送は命がけ
—バウンティ号の反乱—

バンクスは、西インド諸島 (南北アメリカ大陸に挟まれたカリブ海地域にある群島) の食糧事情を改善するため、南太平洋のポリネシアに自生するパンノキを役立てたいと考え、イギリス海軍士官ウィリアム・ブライ (1754-1817) を船長とするバウンティ号 (排水量 215 トン、全長約 28m、乗員 46 名) を遠征させました。

バウンティ号は 1787 年 12 月にイギリスを発ち、喜望峰を周って 1788 年 10 月にタヒチ島に到達しました。パンノキを採集して、その種子から約 800 鉢の苗をつかった後、西インド諸島をめざして 1789 年 4 月 4 日にタヒチ島を離れました。出港後数週間が過ぎた頃、副官のクリスチャン海尉が反乱を起こし、船長ら 19 名は救命艇に乗せられて追放され、パンノキの苗はすべて海に捨てられてしまいました。

反乱の主な原因には、パンノキの苗を収納するため船員の居住空間が犠牲にされ、船員には厳しく制限された飲料水が惜しげもなく苗の灌水に消費されたことがあるとされています。船長のブライは、苦難を乗り越えて 1790 年に帰国。1791 年に同様の任務を行い、今度は無事に成功しました。



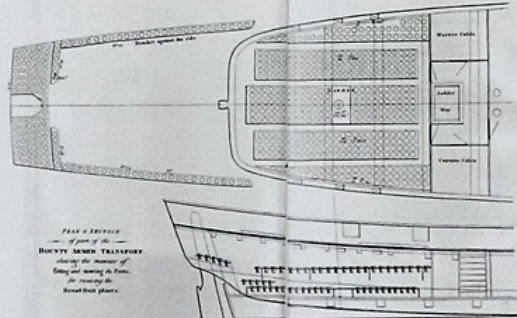
上図：パンノキの果の断面 (Wikimedia Public domain)
パンノキは果肉にでんぷんを含み、蒸し焼きなどにして食べられます。



上図：トマス・フィリップス画「ジョゼフ・バンクスの肖像」 (Wikimedia Public domain)



上図：バウンティ号の反乱の様子を描いた絵画 (ロバート・ドッド画) (1790 年) (Wikimedia Public domain)



上図：バウンティ号内パンノキ苗配置図 (1792 年) (Wikimedia Public domain)

生きた植物を輸送することの難しさ

生きた植物の輸送に際しては、航海中は休みなく波しぶきや高温、乾燥などから植物を守り続ける必要がありました。そのため、植物の船載は船員に嫌われがちで、荒天時には真っ先に捨てられたといわれています。

19 世紀前半に中国の広東に在留していたイギリス人のジョン・リヴィングストンは、広東からイギリスへ植物を生きたまま輸送することの困難さについて以下のように伝えてます。「イギリスへの航海で 1 本の植物が生き残るためには、1,000 本の植物が犠牲になってきた。」(白幡洋三郎著「プラントハンター」2005 年、講談社学術文庫、P.102)

また、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト (1796-1866) は、1 回目の日本滞在中 (1823 ~ 30 年) に収集した植物の一部である約 500 種を、1829 年のはじめにジャワ島経由でオランダへ送りましたが、そのうち無事にオランダに届き、増殖できるまで健全に生育したものは約 40 種にすぎませんでした。(石山禎一著「シーボルト日本の植物に賭けた生涯」2000 年、里文出版、P.181-182)

航路の中継地に植物園を整備

西欧諸国は世界各地の植民地に植物園をつくり、植物輸送の中継基地としました。イギリスは 1764 年頃に西インド諸島のセントヴィンセント島に最初の植民地植物園を創設し、1786 年頃にインドのカルカッタにも同様の植物園を創設しました。オランダもこれに続き、1817 年にインドネシアのジャワ島にボゴール植物園を創設しました。

到着後の回復と馴化を担った植物園

植物の到着後にも、輸送中に受けたダメージを回復させ、その地の気候に適應させる (「馴化」という) 必要がありました。ロバート・フォーチュン (1812-1880) が中国・日本から持ち帰った植物は、ロンドンのチジックにあった王立園芸協会の植物園が受け入れ、馴化のための試験栽培を行っています。



上図：ジョン・ロック画「チジックガーデン図」(1736 年) (Wikimedia Public domain) 王立園芸協会の植物園は 1822 年から 1904 年までチジックガーデンにありました。

右写真：ボゴール植物園のヤシの並木道 (1900 年頃) (Wikimedia Public domain)



上図：セントヴィンセントの植物園の眺め (1825 年) (Wikimedia Public domain)



上写真：カルカッタ植物園のヤシの並木道 (1890 年代) (Wikimedia Public domain)

